月刊 まち・コミ 2007年5月号

● インフォメーション ●http://park15.wakwak.com/~m-comi/

台風23号被災地、市民農園活動支援をおねがいします！
有機無農薬の「たまねぎ」「じゃがいも」購入支援者募集中。くわしくはチラシにて。

● 今月の注目記事 ● Ｐ１～Ｐ３　第18回御蔵学校　報告　　Ｐ５　Ｅメールでの情報提供をしています

第１８回御蔵学校報告

2007年3月10日開催

阪神・淡路大震災12年、復興まちづくりは今
自分たちからできること

震災から12年。ハードの復興まちづくりは収束に向かっています。しかし地域課題は日常にもあり、被災地でまだ人々の生活・心の状態等の復興はまだ続いています。第１８回御蔵学校では、阪神・淡路大震災を機軸に、過去の災害の事例にも振り返り、復興まちづくりとは何かを考えました。

今号では、第２部の事例報告の概要をお伝えします。

■第１部

<13:00～13:10>

開校式挨拶：田中保三氏（御蔵学校校長）

<13:10～14:00> 講演

「過去を振り返り未来に繋ぐ
復興まちづくりとその展望」

大矢根淳氏(専修大学文学部人文学科社会学教授)

■第２部

<14:00～14:40> 事例報告

「御蔵のまちづくり、まち協解散への経緯とその葛藤」

田中保三氏(元御蔵通５･６･７丁目町づくり協議会会長)

<15:00～16:30> パネルディスカッション

「12年目の神戸のまちづくりから考えて
“今”できること」

パネラー

岡本碩也氏(西須磨まちづくり懇談会代表)

清水光久氏(真野まちづくり推進会事務局長)

田中保三氏(元御蔵通５･６･７丁目町づくり協議会会長)

コメンテーター

宮西悠司氏(まちづくりプランナー)

■第２部

事例報告

「御蔵のまちづくり、まち協解散への経緯とその葛藤」

田中保三(元御蔵通５･６･７丁目町づくり協議会会長)、宮定章（まち・コミュニケーション代表）

今まで、御蔵通５・６・７丁目町づくり協議会（以下まち協）とまち・コミュニケーション（以下、まち・コミ）は、二人三脚でまちづくりをやってきました。区画整理の終焉に近づいた３年ほど前からすでに、まち協はいらないのではないか、という話もありました。ハードのまちづくりが終われば、まち協も終わればいいのではという話です。けれどもまち協は、ソフトのまちづくりもこれから先必要だという話で、続けてきました。

去年の夏祭りのことです。震災の年から毎年続けている、河内音頭を招いての盆踊りを例年通り行うことが、自治会総会で決まっていましたが、直前になって、一部の人から止めろという話になり、自治会は開催しないと決めました。もう開催予定日の直前に来ていた上、震災の年から毎年続けている行事なので、それは断れないということで、まち協有志主催で挙行しました。自治会は、自治会主催の子ども盆踊りを別で行いました。

秋口になって兵庫県の『まちのにぎわいづくり一括助成』（http://web.pref.hyogo.jp/wd34/ikkatsujyosei_2006.html）で、１千万の助成金をまち協がいただいて活動できるにことになりました。これで一気に火を吹いてしまいました。このお金で私服を肥やすと言われたり、福祉施設の建設事業に使うんじゃないかと疑われたり、あるいは極端な話、俺らにいくらもらえるのか御蔵通５・６・７丁目の約３００世帯で１千万やったら２万～３万は当たるなというような話が飛び交いました。誤解を解くために、企画書や予算書も全部提出して詳らかにしましたが、一部の人からは全く理解されませんでした。私は県の復興支援課に呼び出され「自治会から４人が来て、自治会でまち協の解散を決定しましたので、助成金は取り消してくれと言っているが、どういうことですか」と尋ねられました。

私としては、理不尽な妨害です。まち協の有志の方は戦おうという話もありましたが、このまま押し進めたのではまちが二つに割れ、精神的に参ることが心配されたので、まちづくりは終焉ではありませんが、まち協としては、認定を返上することにしました。去年の１２月の初旬にまち協の臨時総会を開催し、まち協解散を決議しました。

我々がまち・コミと共に考えていたまちづくりは、魅力あるまちにしたいということです。古民家解体移築しての自治会館を建設し、そこを利用して、いろんな文化人を招いてお話をしていただく「御蔵百聞くらぶ」、そして、小学唱歌をプロの李浩麗さんと一緒に歌う会「唱歌の会」、また他にも、何か面白いことがあったらやってみようという形でやってきました。それがまちづくりの真髄だと思います。つながりのあるネットワークをフルに使ってお願いしてみると、動いてくれる人がいます。

そのまちに住んでみて面白いか、快適か、というのは、買い物に便利だとか遊ぶ場所が多いだけじゃないだろうと思います。隣人との人間関係がうまくいってるか、いってないかだと思うんですよね。心を豊かにするまちづくりが必要だと思います。

まち協議会と自治会が角突き合わせて、すったもんだしていては、エネルギーの浪費だと思ったので退いたわけです。まち協とまち・コミ、二人三脚がうまくいかなくなって、非常に残念です。

高度成長の時代からニュータウン型のまちがずっと嗜好されてきて、その考えの延長がここに効いてきているのかなと思います。ハード先行の

都市計画、ソフトがどうからまるのかまるで見えないまちづくり。古民家移築の自治会館にしても、まち・コミや仲間の獅子奮迅の働きがあってできたもので、それが全否定されたのではあまりにもかわいそうです。でも、まちづくりというのは永遠です。まち協を解散したことで終わったわけではないので、前向きに検討していきたいと思います。

当地区だけでなく、震災復興のためにできたまちづくり協議会は、御蔵のように認定を正式に取り消したところは少ないながらも、活動を終息しているところと、活発にまちづくりをされているところの、二極分化のような形になってきています。

今回のもめ事で思うのは、まち協自体が区画整理事業のものであるというふうに認識している方が、地区の方にはいます。震災の時に急にできたものですので、それが拭いきれないということです。もう一つは、やり方についていけない方もたくさん中にはいる、これは確かです。御蔵地区では震災後しばらく、まち協がまちづくりをやり続けていました。他の地区では、いろんな団体で分担してる組織というのもありますが、御蔵地区の場合は、自治会が再開したのが2001年でした。それまでは、まち協がソフトの事業もハードの事業も全部やってきました。

もめ事が起こったときに、まち・コミが大切にしようと思ったのは、まちづくりがしたい人が町の中にはたくさんいる、という事実です。まちづくりというか、地域活動を地区のためにやりたい人が御蔵の中に震災以降たくさん出てこられて、活動することが生きがいになっている人がいます。修学旅行生が来たら自分の体験を話そうとか、イベントをしたり来客が来られたら何か自分にできることがあればと声を掛けてくださる、ボランティア精神があります。地区の中でもお年寄りを自分たちで支えようという方も増えています。田中元会長が途中で止めようと思ったのは、その方々の志気までは落としたくないということです。あいさつをするだけで、反対側の人と話をしていたといった噂が回ったり、途中では暴力までもあり、本当に怖い状況になりました。これ以上いくと、まち・コミと一緒にやっている、まちづくりをしている人の士気まで落ちてしまいます。組織がなくなっても行政上、看板がなくなっただけで、やっているメンバーは変わらないし、修学旅行生の受け入れなどは、まち・コミと有志でやっていこうということろで、落ち着くことになりました。

突然のお知らせで、まち・コミを応援してくださっているみなさまには、本当に申し訳なく思っております。元気にやっておりますので、今後とも応援してくださったらうれしいですし、外部にはいろいろ噂が飛ぶと思いますが、冷静に判断していただけたらと思います。また、よろしければ現場に来て、いろんな人の話を聞いていただけたらと思います。御蔵学校の目的でもありますが、現場をしっかり見た上で勉強できたらと思っております。まち協をしっかり支援できなかったこと自体は、まち・コミとして反省すべきことだと思っています。今後ともご支援ご指導よろしくお願いいたします。

※第１８回御蔵学校の報告書を現在作成中です。完成しましたらまたお知らせします。

みくらエッセイ

「みくらってところはですね…」

山田奈津

山田です。縁あって時々みくらに出入りさせていただいております。きっかけは論文作成のためのヒアリングでおじゃましたことでした。その際、地域のみなさんが協力して再生された古民家集会所に案内していただきました。内部に入ると、これがまあ、くつろげるんです。天井は高いし、梁はがっしり。またその梁の色ったら、歴史がしみこんでいるのが目で見て分かるんです。それにになにより、手作りの囲炉裏がますます気持ちを和ませてくれる。この場所で、みくらを知らない人たちをよんでワークショップを開かない手はない！とその場で思いつき、一昨年、当研究科学生主催のワークショップを行わせていただきました。

研究機関等が開催するワークショップは、失礼ながら話の内容は小難しく理論的、そして、硬いいすであくびをかみ殺しながら聞くような羽目に陥ることが多い。そうならないように、できるだけ柔らかくしたいと思いつつも、学生主催といいましても、お作法に従わないといけません。私も一応幹事として、事前に先生やゲストスピーカーの方たちとディスカッションについて、堅めの進行打ち合わせを済ませておりました。当日も失礼のないように、とやや緊張しながら開会を待ちました。

ここで、一昨年のワークショップの内容を少し説明します。プログラムは「まちづくり」をテーマに、「みくらでまちを考える一何がまちに賑わいと界わいを創り出すのか」と題しまして、ゲストスピーカーにお話しいただく、という一般的なものです。夕方から始まることもあって、食事・おちゃけ・飲み物つきというプログラムを組みました。食事は学生たちの手作り料理や、地元の商店街にお願いした惣菜など。おまけに囲炉裏で焼く、手作り干物まで準備された優れものメニューだったのですよ。

さて、いざ討議が始まりますと‥堅苦しいはずの話は、すっかり仲睦まじい語り合いながらのディスカッションに。予定していたのは先生方がご自分の理論を、立て板に水で話して終わり、だったのですが、活発に意見や経験談のやり取りあり。そして初対面の参加者はいつの間にやら料理をとりわけあい、そして飲み物を酌み交わす。これって、「組うち」の寄り合い風景では！それに、時期は十月、晩秋の夜気のなかで見つめる燠の明るさ、暖かさ、そして炭の香りの素敵なこと。夜更けまで語り合い、三々五々、解散。しかし10名ほどは囲炉裏を囲んで車座で語り合いを続けました。車座って日本版ラウンドテーブルなんですね。地縁や学縁、社縁を飛び越えて、人のつながりを拡張することができました。この「縁」が「絆」に育って、次のアクションに結びついてくれることを期待しています。みくらは「実践の芽」を創造する場なんですね。

そして昨年、どこからともなく「この秋はみくらで、あれ、やらないの？」とあちこちから声をかけられ、それならば、と再度自治会館でワークショップを開催しました。どうも止められないようです。

○プロフィール○
やまだ なつ　大阪市立大学大学院創造都市研究科後期博士課程在学中。修士（都市政策学）。1965年大阪市生まれ。大阪市立大学卒業後、自治体職員、民間企業などを経て、現在研究活動と同時にNPO活動のスーパーバイザーや大阪市市政改革本部アドバイザー、大阪市福祉・情報研修センター人材育成事業にかかわる非常勤研究員等を兼任。主な論文「ニューパブリックマネジメントと職員の意識改革」『地方自治職員研修』（公職研、2003）。「中心市街地活性化三法改正とまちづくり」（共著）（学芸出版社、2006）。

Ｅメールでの、情報提供をしています

まち・コミでは「月刊まち・コミ」と「ＷＥＢまち・コミ」に加え、Ｅメールでの情報提供をしています。イベント案内や参加協力者募集など、「月刊まち・コミ」の発行ペースでは間に合わない情報を中心に、随時送信しております。

現段階で、まち・コミからの案内メールが届いていない方、またアドレス変更を希望される方は、ぜひメールアドレスをまち・コミまでお知らせください。

まち・コミのアドレス m-comi@bj.wakwak.com へ、ご希望されるアドレスから送信してください。タイトルを「メール情報希望」として、本文中にお名前と所属をおねがいいたします。

また、今メールを受け取っておられる方で、停止を希望される方も、ご面倒ですがまち・コミのアドレスへ、その旨をお伝えください。

よろしくおねがいいたします。

大地のつぶやき

～映画「不都合な真実」を観て～

年始の挨拶で実懇にしている大手仕入れ先で後に旭日小綬章を受けられた社長より「アメリカの元副大統領アル・ゴアの映画“不都合な真実”を是非観るように」と説かれた。年に一度しか会わないけれどお互いに心が通じるよき先輩である。

一月下旬に堺の市民活動コーナーに呼ばれた日が丁度時間があき、この映画を観た。六～七割の入りだろうか。環境問題は関心が高いように見た。ゴア元副大統領が学生時代に学んだ地球温暖化のしくみから解いていく。画面は世界各地の山岳氷河がどんどん溶けて、後退していく様子を写真とグラフを豊富に使って見せる。不屈の科学者ロジャー・レヴェル教授との出合いが今日のゴアたらしめたのかと頷ける。若い時に優れた師と出会うことの大切さがここに生きている。

また息子が子供の頃、目の前で猛スピードでやって来た車に十米も飛ばされ、ぴくりとも動かず、声もなく一命を危ぶまれた。この出来事は危篤の息子を核に、ゴア夫婦と三人の娘の絆をより一層深く厚いものにしただけでなく、ゴア自身の人生観、価値観を変えた。用件で詰まったスケジュールが本当に取るに足らないものであったと突然にわかる。本当に重要なの何か？　と自問した。答えは妻と子供たち家族だ。社会に「役に立つ」とは本当はどういうことか？　時間をかけ考え直してみると、地球環境以上に関心をひくものはなかったと自覚した。本当に大切なことに目を向ける義務を、大切なことを守り、確かなものにするために、自分に出来ることをする義務を与えられたと覚る。ここでレイチェル・カーソンを思い出した。「今私たちは別れ道に立っている。一つの道は立派なハイウェイでスピードに酔うことも出来たが行き着く先は災いであり破滅だ。もう一つの道はそれは余り人も行かないがこの道を行く時にこそ地球と命を守ることが出来る。どちらか選ぶのはあなたたちだ」と。四十数年前の先見の明だ。

株式会社兵庫商会　田中保三

まち・コミ活動報告　4/1～4/30

4/1 出石市民農園作業
4/4 研修受け入れ（ＮＰＯみやざき）
4/6 まち・コミスタッフ打合せ
4/6 御蔵百聞くらぶ打合せ
4/7 出石市民農園作業
4/9 修学旅行受け入れ打合せ
4/11 まち・コミ運営委員会（神戸）
4/12 修学旅行自治会館打合せ
4/13 修学旅行受け入れ打合せ
4/14 研修受け入れ（株式会社山田組）
4/14 御蔵百聞くらぶ（道場洋三さん）
4/16 修学旅行生受け入れ
（五泉市立五泉北中学校）
4/18 月刊まち・コミ４月号印刷
4/19 月刊まち・コミ４月号発送
4/20 視察受け入れ
（台湾彰化県埔鹽鄉公所）
4/21 出石市民農園作業
4/22 きよの絵本劇場 開催
4/24 まち・コミスタッフ打ち合わせ
4/28 修学旅行下見
（岐阜市立藍川北中学校）
4/30 出石市民農園作業

ご支援、ありがとうございます。　4/1～4/30

●賛助会員(新規・継続)●

北島繁昭(埼玉県)　大島英司(東京都)　清野博子(大阪府)　佐藤滋(東京都)　山下憲子(兵庫県)　入口方(兵庫県)
北野泰成(兵庫県)　竹内千恵子(兵庫県)　安富信(大阪府)　濱岡歳生(山口県)　鈴木和博(新潟県)
難波健(兵庫県)　田中邦彦(兵庫県)　山本俊貞(兵庫県)　津久井進(兵庫県)　川村武也(兵庫県)
竹内敏夫(兵庫県)　青池憲司(千葉県)　照屋さつ子(兵庫県)

●協力●

社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都)　株式会社兵庫商会(兵庫県)　【順不同・敬称略】

新規賛助会員募集＆更新のお願い

まち・コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し、金銭面でのご支援をいただいています。会費は、事業推進のために活用させていただきます。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は１年更新とさせていただいています。現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。（期限は、「月刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名の下に記載していますので、ご確認ください。）

会員特典

◆本誌「月刊まち・コミ」の送付。
◆まち・コミュニケーションに関する、Ｅメールでの情報送付、WEBの特別ページの参照

よろしくおねがいいたします。

■編集後記　今年度も修学旅行生が、阪神・淡路大震災の教訓を学びに訪れています。生徒たちの真剣なまなざしに、担当者として、改めて身を引き締めています。(戸)

年会費

個人・法人　年間５０００円
学生　　年間３０００円

郵便振替口座番号

００９５０－３－４２７８８

口座名称

「まち・コミュニケーション事務局」

2007年５月１日発行
編集／発行　まち・コミュニケーション
定価　１００円
御蔵事務所　〒653-0014
神戸市長田区御蔵通5-5
TEL　078-578-1100／FAX　078-576-7961
東京事務所　〒162-0052
東京都新宿区戸山1-24-1
早稲田大学文学部浦野研究室内
神奈川事務所　〒214-8580
神奈川県川崎市多摩区東三田２丁目1-1
専修大学文学部大矢根研究室内
e-mail　m-comi@bj.wakwak.com
URL　http://park15.wakwak.com/~m-comi/